

水稻新品種「ちくし6号」の育成							
【要約】 平成4年度に、前年までに選抜した「ちくし4号～7号」の4系統について場内及び現地試験を行い、収量性、外観品質及び食味評価等の特性を総合的に検討した結果、<u>水稻新品種「ちくし6号」</u>を育成した。							
農産研究所・育種部・水稻育種研究室					連絡先	092-924-2937	
部会名	農 産	専門	育種	対象	稲類	分類	普及

【背景・ねらい】

現在の極早生、良食味品種である「コシヒカリ」は倒伏しやすく、「キヌヒカリ」や「ミネアサヒ」は穂発芽しやすい。そこで、これらの欠点を補った品種を育成するため、昭和63年度より県単育種を開始した。

平成4年度には、前年までに選抜した「ちくし4号～7号」の4系統について、場内及び現地試験を行い、収量性、外観品質及び食味評価等から総合的に検討する。

【成果の内容・特徴】

「ちくし4号～7号」の特性は以下のとおりである。

- ①ちくし4号：穂数はやや少なく、収量性はやや劣る。玄米は他の系統より大きく、外観品質は優れる。
- ②ちくし5号：外観品質は優れるが、収量性はやや劣る。
- ③ちくし6号：収量性は4系統の中では最も優れる。外観品質、食味評価も優れる。
- ④ちくし7号：他の3系統より短稈で、耐倒伏性は優れる。食味評価は優れる。玄米はやや小粒である。登熟がやや不安定あり、外観品質は不良気象条件下ではやや劣る。
- ⑤いずれの系統とも、熟期はコシヒカリ並の極早生であり、穂発芽しにくく、いもち病抵抗性はやや弱であり、4系統間に差はない。

以上より、収量性、外観品質及び食味評価等から総合的に判定した結果、「ちくし6号」を選抜した。

なお、「ちくし7号」は食味評価が良いので、外観品質を中心に継続検討し、「ちくし4号」と「ちくし5号」は試験を中止し、交配母本として利用する。

【成果の活用面・留意点】

- ①「ちくし6号」は平成5年3月に品種登録出願、平成6年2月頃に福岡県奨励品種査定審議会に諮問予定である。
- ②「ちくし6号」は福岡県内の中山間地から一般平坦地の早植、普通期栽培において普及を図る。なお、いもち病に弱いので、適期防除に留意する。

[具体的データ]

表1 「ちくし4～7号」の生育特性

系統名 及び 品種名	成 熟 期	稈 長	穂 数	倒 伏 程 度	穂 発 芽 性
	月・日	cm	本/m ²		
ちくし4号	9.17	70	275	1.7	難
" 5号	9.16	68	298	1.5	難
" 6号	9.17	71	294	1.6	難
" 7号	9.18	64	308	1.2	難
(標)ミネサヒ	9.24	73	309	0.5	易
(比)キヌヒカリ	9.16	74	280	1.0	易
(比)コシヒカリ	9.17	82	302	3.2	難

注) ①農産研究所における平成3年
と4年度の試験結果の平均値。
②倒伏程度：0(無)～5(甚)。

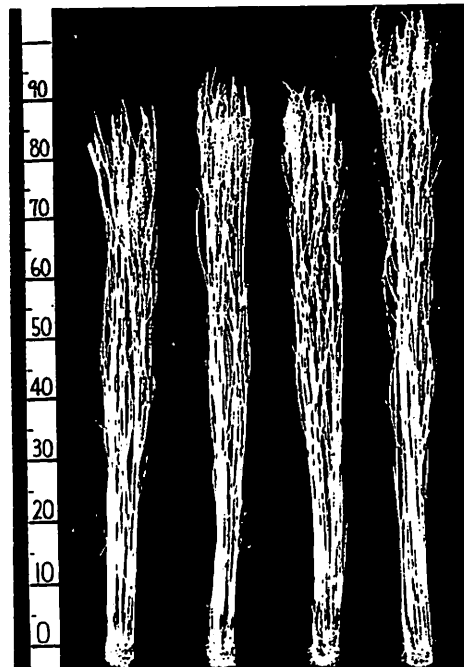


図1 「ちくし6号」の株標本

注) 標本は左より「ちくし6号」、
「ミネサヒ」、「キヌヒカリ」、「コシヒカリ」

表2 「ちくし4～7号」の収量、検査等級及び食味評価

	系統・品種名						
	ちくし 4号	ちくし 5号	ちくし 6号	ちくし 7号	ミネア サヒ	キヌヒ カリ	コシヒ カリ
収量(kg/a)	45.2	45.7	47.5	46.4	45.8	46.0	43.8
(%)	99	100	104	101	100	100	96
検査等級	2.7	2.9	2.9	3.5	2.3	3.1	3.2
食味評価	0.32	0.36	0.51*	0.61*	0.00	0.22	0.30

注) ①試験場及び普及所における平成4年度の試験結果の平均値(n=17)。
②収量比と食味総合評価はミネアサヒを基準とした。*: 5%水準で
有意差があることを示す。
③検査等級：1(1等の上)、2(同中)、3(同下)、4(2等の上)

[その他]

研究課題名：水稻の新品種育成 - 良食味品種の育成 -

予算区分：県特

研究期間：平成4年度(昭和63～平成4年)

研究担当者：今林惣一郎、濱地勇次、古野久美、西山壽

発表論文等：昭和63～平成4年度農産研究所育種部水稻育種研究室水稻育種試験成績書

「ちくし6号」の育成経過と特性

「ちくし6号」は昭和63年7月、福岡県農業総合試験場において極早生の良食味で、穂発芽がしにくい、強稈品種の育成を目標として、良食味で、強稈品種の「キヌヒカリ」を母とし、良食味で、穂発芽がしにくい「コシヒカリ」を父として交配した組合せから育成された。

平成2年(F₆)は「フ系98」の系統番号で、3年(F₇)以降は「ちくし6号」の系統名で、生産力検定試験および特性検定試験に供試した。さらに、3年(F₇)以降は現地試験を加えて地域適応性を検討してきたもので、平成5年度は雑種第9代に当たる。

I R 8
フジミノリ
コシヒカリ

F₁

Co⁶⁰

コシヒカリ

取2800

北陸100号

F₁

キヌヒカリ

ちくし6号

ナゴユタカ

農林22号

農林1号

コシヒカリ

トドロキワセ
ギンマサリ
近畿15号
近畿9号
森田早生
陸羽132号

- ①出穂期および成熟期は「ミネアサヒ」よりやや早く、「キヌヒカリ」と同程度である。
- ②稈長、穂長は「ミネアサヒ」よりやや短く、穂数は同程度の短稈偏穂数型である。
- ③穂発芽性は「ミネアサヒ」「キヌヒカリ」よりしにくく、「コシヒカリ」並の“難”である。
- ④耐倒伏性は「コシヒカリ」より強く、「ミネアサヒ」よりやや弱い。
- ⑤いもち病抵抗性は「ミネアサヒ」よりやや劣り、葉いもちが“弱”、穂いもちが“やや弱”である。
- ⑥収量性は「ミネアサヒ」「キヌヒカリ」よりやや優れる。
- ⑦玄米品質は「キヌヒカリ」「コシヒカリ」よりやや優れる。
- ⑧食味は「ミネアサヒ」より優れ、「コシヒカリ」並かやや優れる。

表1 「ちくし6号」の一般特性

品種名又は系統名		ちくし6号	ミネアサヒ	キヌヒカリ	コシヒカリ
早 晩 生 草 型		早生の早 偏穂数型	早生の早 偏穂数型	早生の早 中間型	早生の早 中間型
出穂期 (月・日)		8.13	8.18	8.12	8.13
成熟期 (月・日)		9.16	9.22	9.15	9.16
稈 長 (cm)		72	74	75	82
穂 長 (cm)		17.6	19.7	17.7	19.5
穂 数 (本/m ²)		321	326	300	324
芒の多少・長短		稀・極短	稀・短	稀・極短	稀・短
ふ 先 色		黄 白	黄 白	黄 白	黄 白
ふ 色		黄 白	黄 白	黄 白	黄 白
脱 粒 性		難	難	難	難
耐 倒 伏 性		やや強	強	強	弱
穂 発 芽 性		難	易	易	難
耐 病 性	葉 いもち (遺伝子型)	弱 (Pi-i)	中 (Pi-i,a)	中 (Pi-i)	弱 (+)
	穂 いもち	やや弱	中	やや弱	弱
	白 葉 枯 病	やや弱	中	やや弱	
玄米重 (kg/10a)		476	460	458	476
同上標準比率 (%)		103	100	100	103
玄米千粒重 (g)		22.6	20.8	22.6	22.5
玄 米 品 質		上 下	上 下	中 上	中 上
食 味		上 中	上 下	上 中	上 中

注) 調査年次は平成2～4年(普通期、標準栽培)。